

え



えんそく
遠足は

たこ公園だ

くりまおはし わた
来間島

くりまおはし わた
来間大橋を渡ってすぐ左手にある、
大きなたこのオブジェのある公園。

う



うずまきパン

畑でみんなの

楽しいおやつ

宮古島の島民に愛され、食べ継がれ
ているうずまき状の菓子パン。
じょうかし

い



イラブチャー

釣^っっておじいの

とくいがお
得意顔

「ブダイ」のことを宮古島の方言で、
イラブチャーと言います。

あ



あららがま

強い心で

生きてゆく

あららがまは、宮古島の言葉で「今に
見ている」という、自分を励ます意味
があります。
はげ

く



き



か



お



クイチャーは、雨乞いのための踊りです。
宮古島には川がなく、長い間干ばつに苦し
められてきた人々は、クイチャーを踊って
神様が雨を降らせて下さるよう祈りました。

クイチャーを

おど つか

踊り疲れた

ひたいに雨つぶ

キビ倒しは、とても大変な作業です。
長時間作業をしていると手も赤くは
れ、肩や腰もパンパンにはってきます。

キビ倒し

たお

カマを持つ手も

しびれてる

狩俣は、宮古島の北西にある集落。
狩俣公売店で売っているアイスケーキ
とアイスボンボンは、昔から変わらな
い味でおいしいです。

狩俣の

かりまた

こうばいてん

公売店でアイス買う

オカガニの
ために巡査も 交通整理
池間島に生息するオカガニは、毎年五月
から十月の満月の夜に、産卵のため陸地
から道路を渡って浜辺に向かいます。
オカガニが安全に道路を渡れるように、
巡査も交通整理をします。

け



健康の

ひけつ

くろざとう

秘訣は茶の友 黒砂糖

黒砂糖は、宮古島ではお茶菓子として昔からよく食べられています。黒砂糖には、カリウムやカルシウムなどのミネラルがたっぷり含まれているので、島のおじいやおばあは、とても元気です。

こ



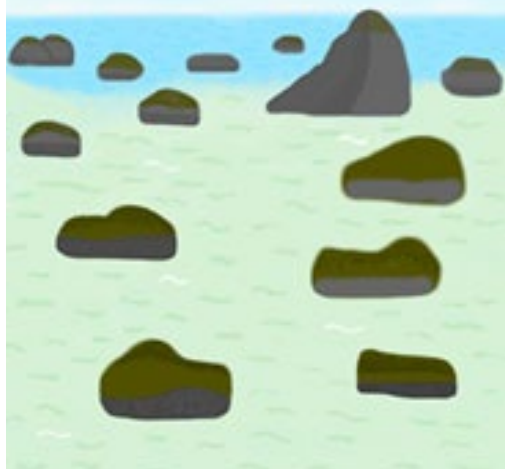
こううんき
耕運機に

の
乗っておじいは

パリへ行く

パリは、宮古島の方言で「畑」のことです。
フランスのパリではありません。

さ



さわだ

佐和田の浜

つなみ あと

津波の後の置きみやげ

いらぶじま
伊良部島にある佐和田の浜には、

一七七一年の「明和の大津波」の時に

運ばれてきた大きな岩が、たくさん残っています。

し



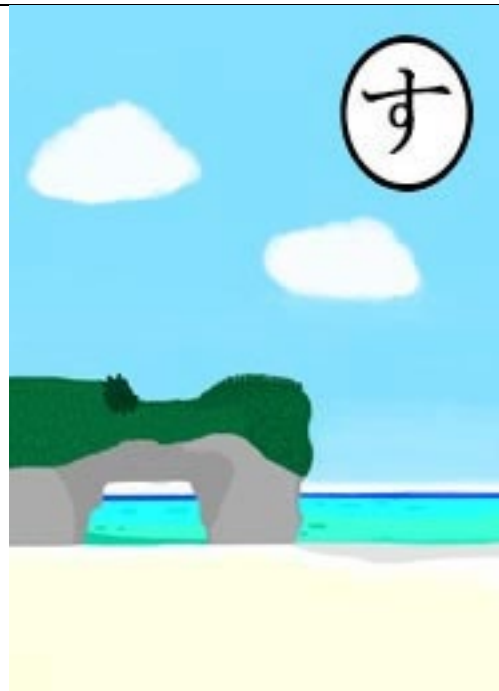
小中学校

みんなじま

昔はあったよ 水納島

水納島には以前多くの人が住んでいて、明治三三年には多良間の分教場が開校。昭和三二年に水納小中学校となりましたが昭和五三年に廃校となりました。

す



砂の丘

あせ
のぼ
汗かき登ると

砂山ビーチ

砂でおおわれた勾配こうばいの急な丘を登ると
眼下がんかにエメラルドグリーンの美しい
砂山ビーチが広がります。

せ



せんぷうき
扇風機

ブンブンうなる

ねったいや
熱帯夜

宮古島の夏の夜は、扇風機せんぷうきの音が
ひとぼんじゅうひび
一晩中なり響きます。

そ



じる
ソーキ汁

宮古の味が

つまってる

ソーキは、骨付きばら肉のことです。
ソーキ汁は豚肉からとったスープに、
コンブやトウガンを入れた宮古島の
きょうどりきょうどりようり
郷土料理です。

た



「たんでいがうたんでい」

ほいくしよ

保育所で子どもが

言っていた

「たんでいがうたんでい」は、宮古島の
方言で「ありがとうございます」の
意味です。

と



とお いけ
通り池
しんぴ
神秘ただよう海の色

下地島にある「通り池」は、海底で海とつながっています。淡水と海水の混じった濃い紺色が特徴です。

て



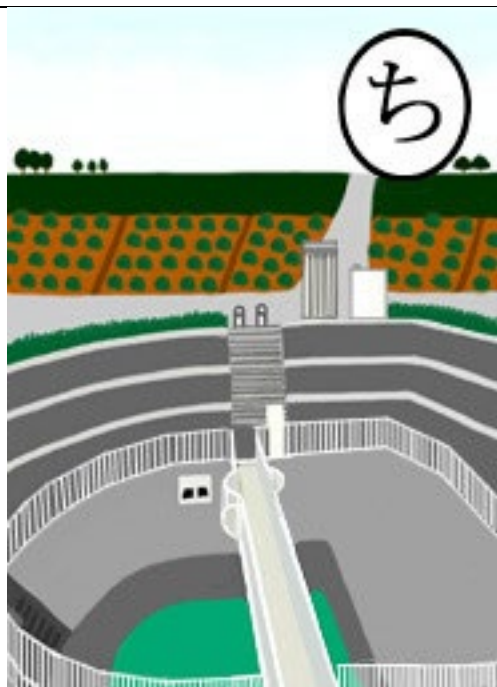
テイの
パズをまげて
ラジオ体操
宮古島の方言で、テイは「手」、パズは「足」のことです。

つ



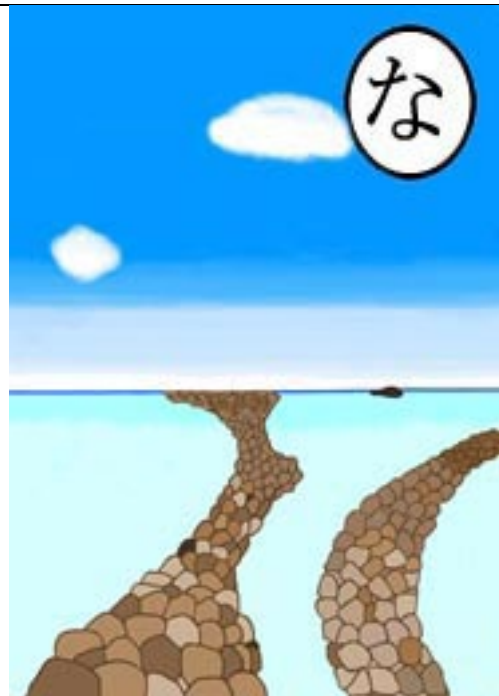
月夜の浜
さざ波聞いて
ヤドカリ眠る
宮古島には、小さな砂浜がたくさんあります。日中はカニやヤドカリなどの小動物が、にぎやかに活動しています。

ち



地下ダムで
畑も潤う宮古島
平成十二年（二〇〇〇年）に完成した地下ダムにより、宮古島の農業は飛躍的に発展しました。
このダムは、世界で初めての本格的な地下ダムです。

な



ながきりよう

魚垣漁

せんど

先祖の生きた

知恵のあと

ながきりよう

魚垣漁は、昔下地島で行われていた漁で、

ひがた

遠浅の干潟に石を積み上げておき、満潮時に

まんちようじ

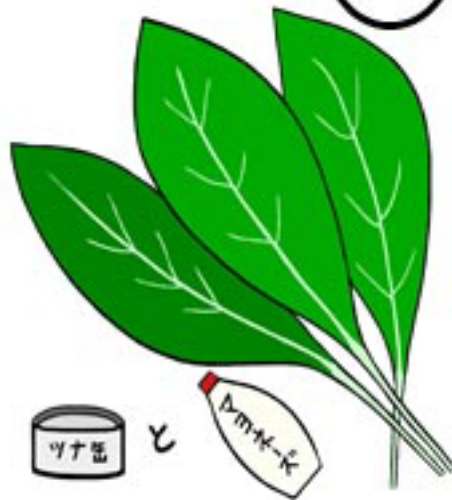
まよ

こ

迷い込んだ魚を干潮時につかまえる漁です。

かんちようじ

に



ニガナにね

ツナ・マヨ加えて 島の味

ニガナは、宮古島の方言で「シギヤナ」と

じせい

言い、島のいたる所に自生しています。

にが

文字通り苦い野菜ですが、千切りにした

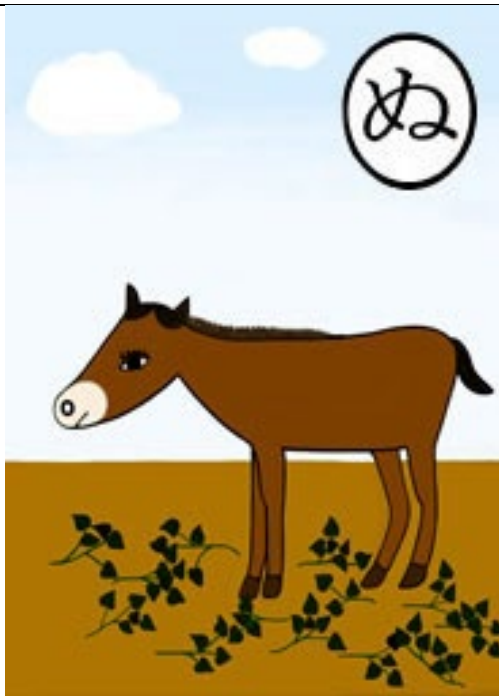
くわ

ニガナにツナを加え、マヨネーズと酢で

あ

和えるとおいしいです。

ぬ



ぬゝまの子

長いまつげが

かわいいね

ぬゝまは、宮古島の方言で「馬」の

ことです。宮古馬は、一九九一年

(平成三年)に沖縄県の天然記念物に

指定されました。

ね



ねえねえは

ばんのう

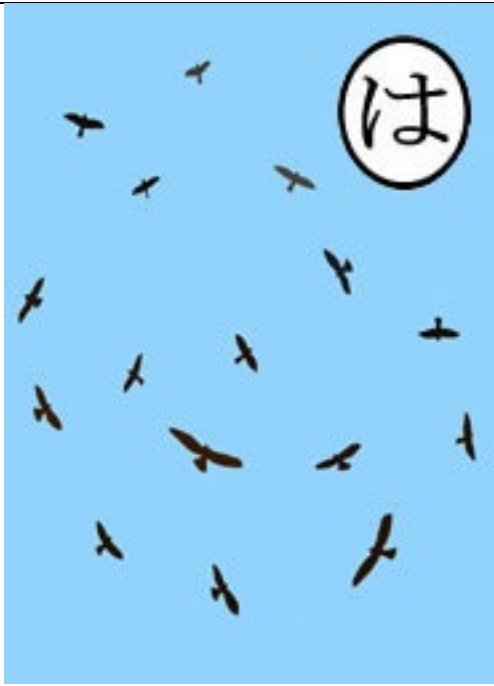
スポーツ万能

パニパニだ

ねえねえは、宮古島の方言で

「おねえさん」。

パニパニは、「元気はつらつ」です。



「ふあいみくる」
あ
母ちゃんの揚げた
サタパンビン

「ふあいみくる」は「食べてみて」の事です。サタパンビンは「砂糖でんぷら」のことで、小麦粉と卵と砂糖で作る揚げ菓子です。

ひさまつ
久松は
ごゆうし
りっぱな五勇士 育んだ
はぐく

にちろせんそう
日露戦争（一九〇五年）の時、宮古島近海を北上していたロシア艦隊の情報を日本連合艦隊に知らせるため、五人の久松出身の漁師が十五時間サバニをこぎ、通信施設のあった石垣島まで行きました。

羽広げ
サシバの群れが
む
輪をえがく

毎年多くのサシバの群れが、伊良部島に飛来します。サシバは遠くまで飛ぶため、上昇気流の筒の中を円をえがきながら上空へ登ります。その様子を鷹柱と言います。

「のうしいりやく」
か
あいさつ
交わす挨拶
こうせついちば
公設市場

宮古島の方言で、「のうしいりやく」は「どうですか？」と言う挨拶の言葉です。



水かけて
「あいじゃ」と言えば
宮古人
水がかかった時、とつさに
「あいじゃ」と言うのは、宮古島
出身者です。

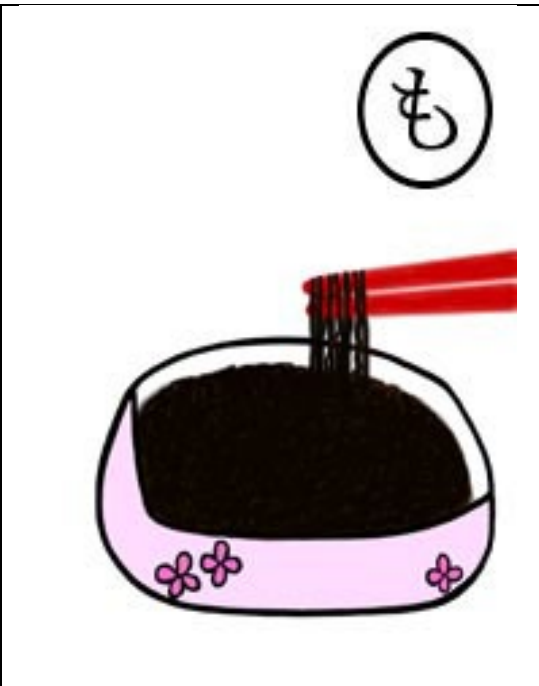
マース煮^には
おばあが^{じょうず}一番
上手^{じょうず}だよ
マースは、宮古島の方言で「塩」の
ことです。海水を使って魚の煮付^{につ}
けを作る料理です。

方言は
宮古の宝^{たから}
大切に
宮古島は人口五万人ほどの小さな島
ですが、各集落^{しゅうらく}ごとに独自の方言^{ぶくじ}が
あり、豊かな言葉の文化があります。

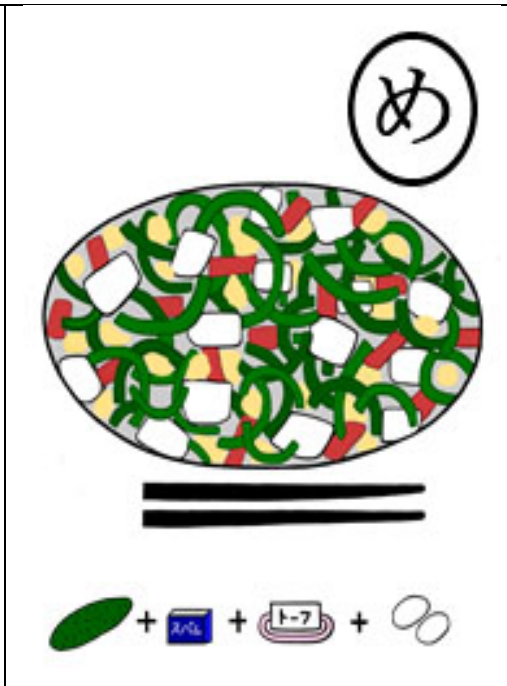
へんなざき
平安名崎
東と西に
二つある
宮古島には岬^{みさき}が二つあります。
城辺にある東平安名崎と、狩俣にある
西平安名崎です。



やびじ
八重干瀬を守ろう
日本一のさんご礁しょう
池間島の北にある、日本で一番大きなサンゴ礁群しょうぐんです。南北約十七km、東西約六・五kmの広さの中に、百以上のサンゴ礁があります。



もずくはね
宮古でスヌイと
言うんだよ
宮古島では、モズクのことを「スヌイ」と言います。



めちやうまい
にがみ
苦味のきいた
ゴーラチャンプルー
宮古島の方言で、ニガウリを「ゴーラ」と言います。
チャンプルーは、炒め物料理の事です。



ムイガールの
だんがい
断崖おりて水をくむ
昔、川のない宮古島では、ガーと呼ばれる湧き水わみずの出る場所で水をくんでいました。城辺にあるムイガルは、約六十メートルも断崖を下りた所にあり、当時の過酷かこくな宮古島の生活を知ることができます。

り



ら



よ



ゆ



りようし
漁師の島

カツオで栄えた

いけまじま
池間島

池間島のカツオ漁は、一九〇七年に始
まりました。最盛期さいせいきの一九五〇年には、
島に八つのカツオ節工場がありました。

ラッキーだ

でっかいマクガン

つか
捕まえた

マクガンは、宮古島の方言で
「ヤシガニ」のことです。

ヨモギの葉

じる

ヤギ汁に入れて

くさみ取る

ヤギ汁のくさみを取るために、宮古島
ではヨモギの葉を入れます。

ゆむねがね

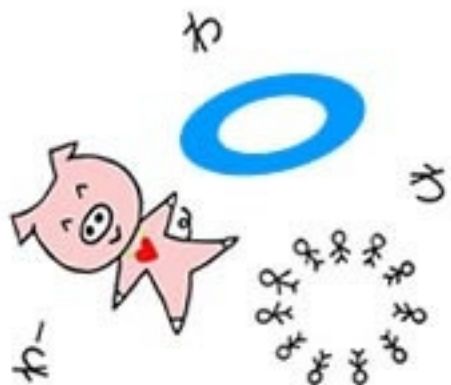
てんじょううち

天井裏で

うんどうかい
運動会

ゆむねは、宮古島の方言で「ねずみ」
のことです。

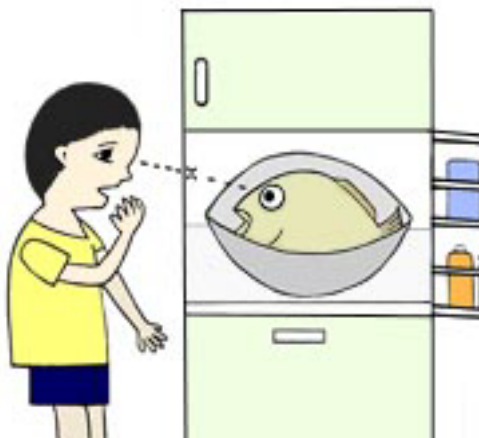
わ



ろ



れ



る



ワーは、宮古島の方言で「ブタ」のことです。

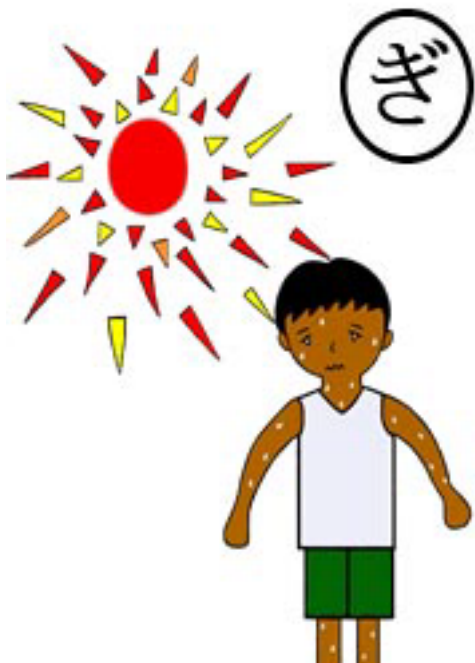
ワーと言えば
ブタのことだよ
宮古島

毎年3〜5つの台風が、宮古島を直撃します。
大型台風の時は停電になるので、ロウソクで明かりをとめます。

ロウソクを
立てて台風の
朝を待つ

れいぞうこ
冷蔵庫
釣ったタマンと
目が合った
さんご礁に囲まれた宮古島では、魚がよく釣れます。冷蔵庫の中にも、大きな魚が丸ごと入っていたりします。タマンは、「ハマフエフキダイ」のことです。

まも
ルール守り
ゆずり合おうね
島の生活
みんなが、ゆずり合いの心を持って宮古島を良い島にしましょう。



ティダは、宮古島の方言で「太陽」のことです。宮古島の真夏の太陽の熱は強烈で、肌を真っ黒に焦がします。

ギラギラと
焼きつくティダが
肌を刺す

「がんぐりゆまた」は、宮古島市内にある路地で、夜になると片足ピンザ（ヤギの化け物）が現われて、子どもたちをおどろかすと言い伝えられています。

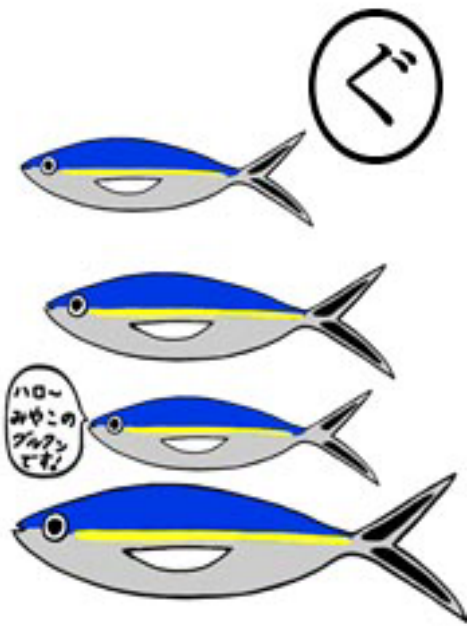
がんぐりゆまた
夜は一人で
歩かない

宮古島の方言で、「んみやくち」は「いらつしやい」と言う意味です。

「んみやくち」と
客をむかえる
宮古島

おোগがみじま
大神島には、海賊キャプテン・キッドが財宝を隠したと言う伝説があります。

財宝を
かくした場所は
大神島か？



グルクンは

ぎょうじ

宮古の行事に

かかせぬ魚

グルクンはタカサゴ科の「魚」です。
宮古島ではから揚げにしたグルクン
が、様々な行事に登場します。

げつとう
月桃の

つつ

葉で包まれた かばすくもち

かばすくとは、宮古島の方言で「いい香り」と言う意味です。旧暦の十二月八日、沖縄では家族の健康を願い、月桃の葉で包んで蒸したもち菓子（ムーチー）を作ります。月桃の葉には、独特の香りがあるので、ムーチーもいい香りになります。

ゴキブリは

ビーヤと言うんだ

いらぶじま

伊良部島

宮古島の方言で、ゴキブリのことを「くーむつ」とか「くーむや」と言いますが、伊良部島では「ビーヤ」と言います。

ザーザーと

朝から大雨

やなわーつく

やなわーつくとは、宮古島の方言で、「いやな天気」という意味です。

じ



じんとうぜいせき
人頭税石

かこくな島の歴史見る
れきし

宮古島の荷川取に、高さ1・43mの石が保存されています。この石は人頭税石と呼ばれ、一六三七年から一九〇三年までの二六六年間、宮古島の島民が琉球王朝に納めていた、税金の歴史を伝えるものです。

ず



ずっこけた
今日もばずかす
父ちゃんのジョーク

ばずかすは、宮古島の方言で「恥ずかしい」という意味です。

ぜ



たらまの黒豆

ぜんざいは

たらま くるまめ

多良間の黒豆

おいしいね

多良間島では黒豆を栽培しています。その黒豆で作るぜんざいは、とても美味しいです。

ぞ



ぞうりはね

宮古でサバと

言っている

サバは、フランス語では「元気?」のことですが、宮古島の方言では「ゴムぞうり」です。

ば



ど



で



だ



ばっしらいんは、宮古島の方言で
「忘れられない」という意味です。
わす

ばっしらいん
宮古の味だよ
宮古そば

どぎもぬく

畑の先にドイツ城
じょう

「うえのドイツ文化村」は、旧上野村と
ドイツの歴史交流を記念して建てられ
ました。
はくあいきねかん 博愛記念館の外見は、ドイツ
のマルクブルグ城を再現しています。
さいげん

デイゴの木

赤いお花が 鮮やかだ
あざ

春から初夏にかけて咲くデイゴの
花は、鮮やかな赤い色をしています。
あざ

「だからよ」と

母さん電話で

あいづちを

「だからよ」は宮古島の方言で、
「そうだよね」という意味です。

ぼ



べ



ぶ



び



ボウチラは
いたずらばかりで
今日も叱られ
しか

ボウチラは、宮古島の方言で
「いたずらっ子」のことです。

勉強は
ヤラビの時に
やっとうらう
べんきょう

ヤラビは、宮古島の方言で
「いどむ」のことです。

ブーギの葉
風に吹かれて
夏の午後
なつ ごご

ブーギは、宮古島の方言で
「サトウキビ」のことです。

びごびご
ススキの穂先で
ほほなでる
ほさき

びごびごは、宮古島の方言で
「くすぐったい」という意味です。



へダルこぐ
 くらわもたくまし
 ストロングマン
 くらわは、宮古島の方言で「ふくらはぎ」のことです。宮古島では毎年4月に、外国や国内から15000人の選手が参加して、トライアスロン大会が開かれます。

「ふからす」と
 目じりを下げる
 ばんたがおばあ
 宮古島の方言で、ふからすは「うれしい」、ばんたがは、「私たちの」という意味です。

ピンザの子
 ピョンピョン跳ねる
 城辺街道
 ピンザは、宮古島の方言で「ヤギ」のことです。

パイナガマ
 昭和の子供の
 海水浴場
 パイナガマは、宮古島の方言で「南の長い砂浜」という意味です。市内から一番近いビーチで、以前は海水浴を楽しむ人々にぎわっていました。

ぽ



ぽっちやりな

ぽう

しばらのマー坊

かわいいね

しばらは、宮古島の方言で「後ろの家」のことです。